

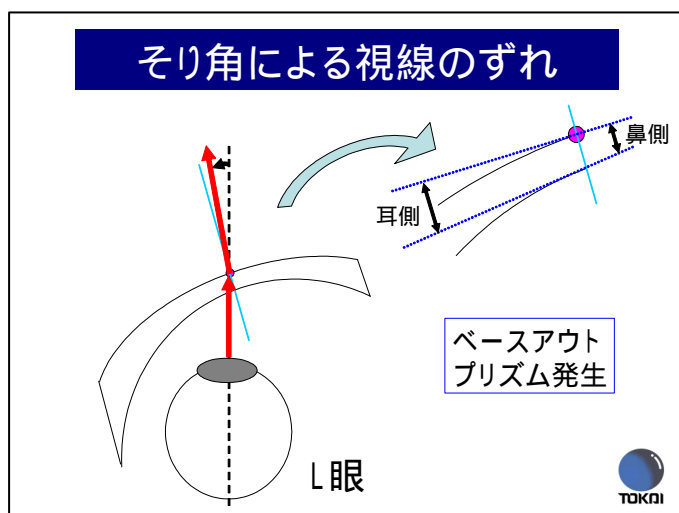
モードサンク度数補正システム（モーディック・システム）ご説明

本システムは、カーブの深いフレーム用に開発したモードサンクシリーズをより効果的に、より快適に装着していただく事を目的に、フレームそり角によって生じる「視線のずれ」「体感度数の変化」に応じた「補正度数」を簡易にシミュレーションできるTOKAI独自のシステムです。

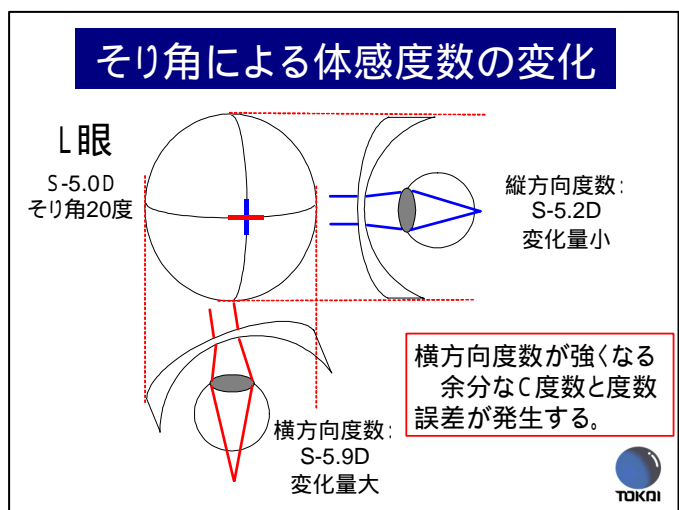
・フレームのそり角によって生じる「視線のずれ」と「体感度数の変化」について

そり角（フレームカーブ）の大きいフレームに、一般的なフレーム用の度数で眼鏡レンズを枠入れ加工し装着した場合、視線に対するレンズの光軸が傾斜することにより、「視線のずれ」と「体感度数の変化」が生じます。（下図参照）

これにより着用者は、特にそり角が大きい時、矯正過不足・両眼視での違和感やユレ・ボヤケなどから目の疲れを感じ快適な装用が出来ないことがあります。



レンズが傾くと視軸と光軸のずれが発生します。そり角による場合は、視線が外向きになるので（ベースアウトプリズム発生）視線のズレを視軸に合わせる為にベースインプリズムを付加し補正することになります。



レンズが傾くと傾斜した方向にレンズ度数を強く感じ、体感度数の変化が起こります。そり角による場合は、横方向の度数が強くなるので、横方向の度数を弱めに補正することになります。

入力手順及び操作・表示

まず初めに、対象商品を選んでください。

次に、レンズ度数情報を入力してください。

中心厚は省略可能です。(省略の場合は規定値が自動表示されます。)

前傾角、PD等の情報入力については順次バージョンアップにて対応していく予定です。

次に、使用フレームのそり角を入力してください。

そり角測定には今回専用の[そり角簡易測定チャート](#)を用意しましたのでご活用ください。

最後に、補正の割合を選択し、計算ボタンをクリックしてください。

ユーザーのS度数、C度数、プリズムに対する許容度、使用目的等を考慮し、補正割合を変えてシミュレーションをしながら選択されることをお勧めします。

画面下段(矢印下)に、補正を考慮した度数他が表示されます。

表示ステップは、0.12及び0.25より選択が可能です。

尚、補正度数での装用確認をあわせて実施していただくことを推奨いたします。

画面中段には、ご入力頂いたレンズ度数情報で装用した場合の体感度数(透過光)が表示されますので補正度数との対比が可能となっています。

表示ステップは、0.12及び0.25より選択が可能です。

・[そり角簡易測定チャート](#)について・・・

【登録意匠 第1334355号】

カーブ深いフレームのそり角を簡易に測定していただく為のオリジナルチャートです。

フレームの鼻幅データにあわせて使用チャートを選択してください。(鼻幅15mm~20mm対応)

フレームフロントのブリッジ部をチャートにあてて、鼻幅位置をあわせてください。

左右の傾きのバランスをとった状態で、リム耳側又はダミーレンズ耳側と重なり合ったレッドラインに表示された角度がそり角になります。(下図参照)

